



代表質問 誠真会 廣部 真造 議員

施政方針について

高島市の厳しい財政状況への対応について問う

行政改革の取り組みを継続するとともに、公共施設の再編や事務事業の見直しを強力に進めます

え、しっかりと議論を深め具体的な方針を検討します。

市民の生活基盤であるJR湖西線の強風対策と、国道等の道路整備の進捗について伺う。

市内に関係機関や外部有識者等で構成する検討会議を設置し、関係機関と連携し、強風対策やバリアフリー化等について、より具体的な提案・要望を検討していきます。

市長

厳しい財政状況を踏まえ、将来の財政見通しを明確にすることが不可欠であると考へ、「長期財政計画」の改訂を指示しました。将来に向けて持続可能な自治体運営を継続するため、行財政改革の取り組みを継続し、特に公共施設の再編や事務事業の見直しを強力に進めます。



昨年の所信表明で掲げた「3つの緊急課題」と「7つのビジョン」、それらを実現するための「3つの土台」についての自己評価について。また、今回の施政方針の内容との整合性について市長の認識を問う。

極めて厳しい財政状況にある本市において、将来にわたる持続可能な行財政運営をどう確立していくのか。その為のコスト意識の徹底や、具体的な歳出抑制の工夫について伺う。

問

答

問

職員の適正化計画において、正規職員だけでなく会計年度任用職員の配置数も含め、組織全体のスリム化を図るべきだ。業務効率を上げるべきだ。業務効率を上げなければ、今後の人件費増加が懸念されるが、具体的にどう検討していくのか。

市長

正規職員の適正化計画はあるものの、会計年度任用職員の増加に伴う課題があると考へます。会計年度任用職員においてもスリム化・効率化した適正な人員規模の維持が必要と考へます。ご提案を踏ま

市長

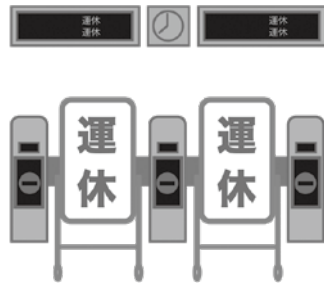
市内に関係機関や外部有識者等で構成する検討会議を設置し、関係機関と連携し、強風対策やバリアフリー化等について、より具体的な提案・要望を検討していきます。

問 特に湖西線は強風による

運休や遅延が頻発し、市民生活に大きな影響を与えている。市が一定の資金負担を伴う協力を提案してでも、強風予測の精度向上を図るべきではないか。

答 市長

予測精度の向上のため、ご提案を十分に参考にして協議を進めていきます。



問 厳しい財政状況に対して

のコスト意識や歳出の工夫、ポテンシャルを活かすための具体的な説明と予算編成に際しどのような指示をしたのか伺う。

答 市長

厳しい財政状況を踏まえ、

長期財政計画を改訂し、次年度からは公共施設再編や事務

事業の見直しを強力に進めます。予算編成については、行政改革の推進、国・県の支出金の効果的な活用による持続可能な施策の展開を基本方針として指示しました。

問 企業版ふるさと納税のメ

ニューにある「人材派遣型ふるさと納税」は、民間の専門知識を市政に取り入れる有効な手段だ。本市のDX（デジタルトランスフォーメーション）推進に向け、具体的な活用を検討してはどうか。

答 市長

DX化は大変重要であり、これまでも進めてきました。が、庁内に専門人材が不足していると感じております。外部から専門人材を入れることで、DX化がより進むと考えます。ご提案の「人材派遣型ふるさと納税」の活用も含め、しっかりと議論していきます。

問 保育士の確保と定着は待機

児童解消の鍵となる。新たな支援策はあるか。

答 市長

滋賀短期大学との包括的連携協定に基づき、同短期大学から公立園保育士採用にかかる推薦枠の新設の提案があり、制度導入の検討を進めています。



ターン」就労者に対し、手当

や助成を検討してはどうか。

答 市長

「Uターン」的な視点での支援策は、保育人材を確保するための視点としても重要であると考えており、しっかりと議論していきます。

問 今般の組織改編で新設され

る「市長直轄組織」について、現状の課題と改編によって期待される解決内容、およびその判断理由を伺う。

答 市長

本市の魅力と可能性を最大限に活かすためには、市民や民間団体、行政が協力した「官民共創」への取り組みが必要です。しかし、部局間の調整や意思決定に時間がかかるという課題があるため、市長が直接指揮を執る司令塔として、新設組織が市政全体の方性を統一し、効率的な政策立案・実行体制を整え、高島市の発展に貢献できるものと考えています。

問 高島市民が近隣自治体（大

津市等）へ通勤している現状を鑑み、市外の事業所から市内の事業所へ戻って働く「U